1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071800314		
法人名	社会福祉法人 芳寿会		
事業所名	グループホーム ふれあいセンター菟田		
所在地	福岡県飯塚市菟田142番地1	Tel 0948-29-4040	
自己評価作成日	平成22年 6月 16日	評価結果確定日	平成 22年 8月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2-5-27	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	平成22年 7月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりを正しく理解し、個人としての個別性を尊重し、尊厳を持って対応するよう心がけながら、今日一日を大切に考え、日々の生活を支援している。地域行事や事業所行事等を中心に地域との交流を大切にしている。
家庭的雰囲気を保ちながら、利用者が安心して過ごされるよう、寄り添うケアにつとめている。一人ひとりの体調の変化に対応できるよう、日々、バイタルチェックや観察をし、健康管理に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

短大、小中学校、幼稚園、保育所等、文教地区の小高い丘の上の住宅地に福祉施設と併設のグループホームふれあいセンター菟田がある。広いホームの中は、全室畳の間にして、家庭的な雰囲気、穏やかに、安心して暮らせる環境である。開設11年目を迎え、地域住民と信頼関係も出来、介護相談窓口や災害時の避難場所として取組、地域福祉の拠点を目指している。管理者と職員は利用者や家族の悩み、心配事を家族会を通して相談され、一緒に悩み、苦しみ、解決に向けて協力している。また、利用者の健康管理は、看護職の職員の気づきやアドバイスで、職員全員が、利用者一人ひとりの心身の状態を把握し、安心して任せられる体制である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流、個別性の尊重、家庭的雰囲気を保ちながら、と地域密着型の意義をふまえた理念を掲示し、毎朝の申し送り時にスタッフ全員で理念の唱和を行い、理念を共有し介護の実践に取り組んでいる。	地域密着型としての独自の理念を掲示し、スタッフは始業前に唱和して理念の共有化を図っている。実践面では、3K(感謝のこころ・謙虚なこころ・共感するこころ)を心得として、その人らしい生活の支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、隣組長や近所の方々が広報「飯塚」を持ってこられるなどの訪問がある。また地域の体育祭、祭り、敬老会、小中学校の運動会等に参加し、地域の方々との交流の機会を持っている。	地域で開催されるお祭りや運動会等のイベントには、利用者とともに参加し、地域の方々にも気軽に来訪していただき、地域の一員として交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や利用者の家族を対象に、介護教室を開催する計画もある。毎年、地域の協力でふれあい夏祭りを開催し地域と入居者様の交流の場を作っている。また、地域のいきいきサロンへの協力の申し出をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、奇数月第4金曜日と定め、定例開催している。利用者の状況、サービスの提供状況、行事等の実施報告をし、推進委員の意見をいただき改善すべきところがあれば、スタッフと話し合い、改善に向けてとりにくんでいる。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、ホームの現状報告や、参加者からの要望や提言など活発な意見交換が行われ、出された意見、要望は運営に反映できるように努力している。今後はオブザーバーの参加など、会議の更なる活性化について検討の予定である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設で開催する夏祭り、介護教室等の案内をしている。必要時には電話等で相談したりしている。運営推進会議には必ず出席していただいている。毎月、市派遣の介護相談員が来訪されている。	運営推進会議のメンバーである地域包括支援センターとは連絡を取り合い、協力関係を築いている。ホーム主催の夏祭りや介護教室の案内、電話での相談等を行っている。毎月、市派遣の介護相談員の来訪がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない介護を実践している。問題行動発生時は、スタッフが付き添い、マンツーマンの介護を実践している。	利用者の権利として身体的精神的拘束を受けないことを契約書に明記し、「身体拘束廃止マニュアル」を作成し、これらを勉強会に活用して、職員に理解してもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内において虐待はないと信じている。毎朝、利用者のバイタルチェックの時、顔色表情等の確認をしている。スタッフ教育の中で、言葉使いや接する態度等の注意をはらっている。高齢者虐待防止関連法やパンフレット等備えている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム協議会の勉強会、市主催、介護支援専門員連絡協議会の研修会に参加している。他のスタッフには、回覧で伝達している。当ホームの利用者で1名利用されている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、管理者と主任は制度の理解があるが、スタッフまでには浸透していない。説明資料やパンフレットの整備を検討している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について最新の資料を整備し、管理者・職員共に、利用者や家族に対する情報提供と説明ができる様な体制づくりが望まれる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に充分説明している。又入居の際には、一日でも早く慣れていただき、安心して生活する場所と認めていただくよう支援している。退居の場合は、ご家族等の意思を尊重し対応している。			
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者の家族に交代で参加いただいている。 ホームの玄関靴箱の上に、面会簿と並べて苦情箱を設置している。苦情箱の設置、そのことのお知らせをホーム内壁に貼付している。ご家族とはコミュニケーションを密にしている。	家族の来訪時に、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理について報告し、不安や要望を聴くなど、コミュニケーションを密にし、気軽に来訪できる雰囲気作りに努めている。運営推進会議には利用者と家族が交代で参加し情報交換を行っている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議・スタッフ会議を実施している。必要時に個別面談を実施する。	スタッフ会議では、事業所の運営に関することや決定事項等の報告を行い、情報の共有化を図っている。利用者のケアに関しては現場の職員の意見が反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種資格を取得することへの奨励、資格手当や役付き手当の支給など安心して永く勤められる環境作りに努力している。			
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢等を採用対象から排除するようなことはない。職員については、事業所間の異動、休暇等の希望は取り入れるようにしている。	職員の募集、採用条件に性別や年齢の制限は無く、採用対象から排除することは無い。職員の勤務の要望や休暇の希望には応えられる様に配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権、高齢者を尊重することは日頃から教育している。過去に利用者を～ちゃんとお呼びしていたことがあったが、現在は～さんと全員お呼びしている。	入居者の人権尊重に向けて、スタッフ会議や日常の実践場面での教育、啓発に心がけている。運営推進会議を活用した人権教育の専門家による講演等も検討の予定である。		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の勧め、又、研修に行く際の勤務調整等の便宜を図っている。 グループホーム協議会の研修や学習会に参加している。法人全体での研修会等の開催もある。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	菟田地区にグループホームが別に一箇所あり、勉強会や行事の参加等の交流をしている。それぞれの運営推進会議に、管理者等が参加している。グループホーム協議会のブロック学習会は必ず出席している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでは管理者と計画作成担当者が対応し、入居後はスタッフが関わりを深めていくことにしている。 管理者が個別に話をしたり、聴いたりする機会を設けている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	居宅介護支援事業所のケアマネージャーや病院のソーシャルワーカー等と連絡し合いながら入居までの対応を支援している。 支援に対する家族の意向を聞くようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の対応は、管理者と計画作成担当者が対応し、その時必要な支援を提案しながら対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の流れの中で、食事の配膳、後片付け、掃除、洗濯物干し・たたみ等をスタッフ、利用者と共同作業する時にスタッフが教わるが多く、謙虚に感謝しその時を共有している。一緒に取り組むことで学ぶことも多い。共に支えあう関係となり、一緒にテレビを見て笑い、ゲーム・体操・レクリエーションでも盛り上がっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	心身、身体両面の状況をスタッフ、家族が共通認識しておけるように連絡を密にしている。家族に本人から年賀状や暑中見舞いのはがきを出したり、家族から母の日のメッセージをいただいたり、定期的通院の介助をお願いしたり、各行事ごとに参加の案内をしたりしている。家族からのアドバイスもあり一緒に取り組むことで共に支える関係作りをおこなっている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お稽古仲間、友人、親類、近所の方々等の訪問時には、ゆっくりしていただける為の配慮を積極的にする。また、本人が行きたいと思われるところへの外出。戸外ドライブ等を実施している。	近隣に住む友人の方々との訪問や隣接するディーサービスの利用者との交流があり、来訪者にはゆっくりしていただけるような、雰囲気作りを心掛けている。また、利用者一人ひとりの馴染みの場所を把握し、ドライブ等で訪れたりしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝の挨拶の呼びかけ、食事テーブルの配慮。ゲーム等のチーム分け、共同作業での助け合いの支援や話が弾むための介入等に努めている。互いに支え合っていることを実感できる支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され、他施設入所や病院へ入院等された方を面会し、その後のご様子をみにいくこともある。利用者や家族からの相談にもその都度応じるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに寄り添うケアに努め、思いや希望の把握に努めている。 本人とのみの対面でゆっくり話せる時間を作り、希望、意向を受け入れていきたい。	利用者一人ひとりの興味や関心を把握し、ゆっくり会話をし、出来る限り希望に添えるよう努めている。意向の表出が難しい利用者には、家族からの情報を得て、本人の思いや願い、要望等を受け入れる様にしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前の生活等の状況を関わってこられた家族、ケアマネ等から情報を頂き、可能な限り把握している。一人ひとりに寄り添うケアに努め、思いや希望の把握をしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの毎日の健康管理、心身状態の把握や共同活動、レクリエーション時に行動観察することで、本人の現状を把握している。小さな変化を見落とさないよう気づきを大事にしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の単発的、継続的な課題について、本人を尊重しつつ、家族の意向、意見を聴き、スタッフ間で話し合いをし、介護計画に反映している。介護計画見直し時には本人、家族、スタッフが一同に会しての、担当者会議を実施するようにしている。	利用者本人や家族の意向や要望を聴き取り、関係者が意見を出し合って、利用者主体の介護計画を作成している。介護計画は、3ヶ月毎の見直しと利用者の状態変化に応じて、その都度見直しを実施している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、変化を主に記録している。ケアの実践・結果、気づきや工夫はスタッフ間で行っているが、記録不足もある。申し送りや連絡ノートの活用でスタッフ間の情報の共有をし、実践や介護計画の見直しをしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスのプログラム(工作・歌唱など)夏祭り、敬老会、忘年会、ボランティア訪問時などに参加交流。デイサービスの休みの日を利用してゲーム、カラオケ、リハビリ等をしている。デイサービスのお風呂で温泉気分の入浴を実施している。花火大会の日は、併設の有料ホームで交流見学をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	菰田地区に保育所・幼稚園・小中学校・近畿短大があり、ボランティア訪問がある。また運動会、文化祭の案内も頂き、参加している。学校の介護現場見学・実習等の受け入れをおこなっている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医及びホーム協力医への定期受診、急な受診、健康診断、インフルエンザ予防接種等の支援を実施している。必要時には往診や訪問診療をしていただいている。	利用者、家族の希望に添った受診支援を行っている。医療機関の往診や24時間の医療連携等、必要時には往診や訪問診療が受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一人ひとりの疾患等を熟知した上で、日々の変化や状況を看護職員へ伝え相談している。看護職員が治療薬管理を行い、協同で食事摂取、排泄調整、水分補給、清潔、睡眠、休息等の注意を払い、健康に過ごせるように支援を実施している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、看護職員等が入院先を訪問し医師や担当看護師より病状、経過等の情報をいただいている。長期入院は廃用による寝たきりを作りかねないので、ホームの受け入れ態勢の説明をし、退院後の簡単なリハビリの実施が可能なことを伝えて、早期退院にむけた支援を実施している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合も可能な限り支援していく。重度化した場合の対応にかかる指針を作成し、家族等の同意を得ている。ADL低下により座位、起立保持が困難となりつつある利用者は、転落・転倒のリスクが生じ支援の対応方法を家族等と話し合い、共通認識するようにしている。	ホームとして、看取り介護は行っていないが、重度化や終末期について、家族と話し合い、方針を共有して、可能な限り支援できる様にしている。重度化した場合の対応について、家族と話し合い同意を得ている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変の可能性、事故発生時の対応等、日頃よりスタッフと話し合っているが、看護師に頼ることが多い。定期的に救急救命講習会の開催や講習にも参加している。AEDを設置している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練を年2回は実施している。新人の夜勤者に夜間を想定して実際に出火したことでの訓練をしている。緊急時の連絡網あり。ホーム近隣に複数の職員が居住している。自動通報装置があり、火災発生時のマニュアルを作成している。	消火設備、マニュアルが整備され、年2回の避難訓練と夜間を想定した訓練を行っている。訓練では地域住民の参加協力は得ていない。非常食を含めた備蓄は法人の事務所で一括管理されており、ホーム独自の備蓄は無い。	地域との交流を図り、地域住民の協力を得て避難訓練の実施と、非常食や飲料水の備蓄については、ホーム独自の備蓄が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的な支援として、個人の尊厳を保ちながらプライバシーの保持を実施している。人生の先輩としての尊敬の念をおいて、言葉使いに注意するようにしている。	利用者一人ひとりの尊厳とプライバシーの確保を基本に、利用者に対して、人生の先輩として畏敬の念をもって接し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。職員の言葉かけや対応が優しく、柔らかく感じられる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、活動に自然に参加できるような雰囲気作りに配慮している。無理強いせず、それとなく声かけをしたりして自主的な動きを待ってみるような支援をしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその一日の流れに沿って、本人のペースで過ごされることを大切にしている。意思表示の困難な方については、体調や気分に合わせて行動への支援をしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る物はなるべく自分で選んでいただくようにしている。二ヶ月に一回、出張サービスで髪カットに来ていただいている。個別に買物に行き、本人が選んだ物を買って身につけられるように支援することを計画中である。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は併設施設の厨房で作っていただいた食事となっている。ご飯はホームで炊き、ホームの食器に盛り付け、配膳、食器等の洗いもの、片付けを利用者と職員が一緒にしている。時には食べたいメニューを聞き、利用者と職員と一緒に献立を作り、買物、調理をしている。食べたいおやつ(ぜんざい・一銭洋食・お団子等)作りをしている。	月に3回程、利用者と職員と一緒に献立作成、買い物、調理まで行い、盛り付け、配膳、食器等の洗いもの、片付けを行っている。食事は職員も同じテーブルで同じ食事を摂り、楽しい食事風景である。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量については、毎日、毎食観察している。栄養バランスについては、栄養士が立てた献立の食事を提供している。食事摂取は、声かけ、介助を行い出来るだけ食べて頂けるよう支援している。嗜好品を聞き、メニューに反映できる。夜間の水分補給も気をつけている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい・歯磨きを実施している。声かけ、見守りを行うと共に確実に出来ているか確認を実施している。義歯はスタッフが洗浄し、夜間はお預かりしている。毎週日曜日はボリデント洗浄の実施。歯茎の出血や炎症のチェック、歯科医に年1回は検診を受け、治療が必要な時は、家族に相談して治療を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツの利用者には継続できるよう、紙パンツの方は昼間だけでも布パンツで過ごされるよう支援している。意思表示される方については、自己で行かれるよう支援し、意思表示のない方については3時間ごとにトイレ誘導している。排泄の記録を取り、排泄パターンの記録を参考に失敗を減らせるよう心がけている。	一律なトイレ誘導ではなく、利用者一人ひとりの排泄パターンを記録し、利用者に添ったトイレ誘導を可能にしている。排泄の自立に向けた実践的かつ研究的な取り組みがなされている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	廊下回廊など適度な運動を実施している。食事量の把握、水分摂取の確認、水分補給の支援の実施。便秘気味の時は、一人ひとりの体調に合わせ、緩下剤の服用の支援をしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は7～9月は毎日、10～6月は隔日に実施している。汚染等があった時はその都度支援している。「入りませんか。」と声かけし、一人ひとりのペースに合わせて誘導している。ゆっくり入って頂けるよう、スタッフが見守り及び介助を実施している。	夏場は毎日、冬場は隔日の入浴日設定であるが日曜日には、隣接するデイサービスの大浴場を利用し、カラオケをかけながら温泉気分を楽しんでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して過ごして頂く事が、支援の基本であることを念頭に置き、本人の体調に合わせ、休息・午睡・夜間の安眠の確保等の支援をしている。室内環境、温度調節、換気等に配慮しながら見守りを行っている。お一人お一人の就寝時間に合わせ、夜間の見守りは1時間ごとに実施している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者一人ひとりが服用している薬の目的や副作用、用法や用量について、薬の説明書や看護師等からの説明を受け、服用間違いのないように1日分ずつ各個人の薬入れに気をつけて分けている。日頃から症状の変化の確認に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭的な役割(掃除・洗濯干し・たみ・食事の配膳・食器洗い)の分担。習字、季節の貼り絵、縫い物、塗り絵、工作等。季節を楽しむドライブ、四季の花見物等に出かけ、気晴らしの支援を実施し楽しみを感じていただいている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候のよい時期には、屋外でラジオ体操、日向ぼっこ、近くの公園までの散歩をしている。家族の協力での外出、外食等も行われている。	その日の希望や体調、気候等に配慮し、買い物や散歩など積極的に出かけたり、利用者の希望に沿った支援に努めている。また、家族の協力での外出や、外食等も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は利用者自身での所持はない。お金を使う機会も少ない。ホームで小額の現金を預かっているが、これからの課題として、買物をする時の支払いを利用者自身でしていただくなどの支援を検討する必要がある。又、本人や家族の意向があれば、お金の所持も支援していく。			
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば家族等への電話をかける支援を行う。手紙はスタッフが声かけて年賀状や暑中見舞いのはがき書きをして、家族等に出す支援をしている。			
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけゆっくりとくつろげるよう、光・照明・室温・換気等に配慮しながら、共有の居間の確保に努めている。畳敷きに掘りごたつがあり、テレビ等を置き、昼寝、居眠りの出来る環境としている。天候による照明のコントロール。音楽を適宜流したりしている。壁にはカレンダーや利用者様作成の貼り絵等を飾っている。	リビングルームは、天井が高く、柔らかな日差しが差し込み、居心地のよい寛ぎの場となっている。日中は、利用者が居間で過ごし、畳敷きに掘りごたつやテレビ等を置き、のんびりと過ごせる環境になっている。利用者と職員と一緒に作成した、季節の七夕が飾られ華やかである。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室と共有の居間を自由に行き来しておられる。ソファや椅子に座り、テレビを見たり、会話をしたり、居眠りしたりの光景が見られる。			
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に相談して、愛用品や、使い慣れたものを持ってきていただいている。一人ひとりが安心して、違和感なく居心地よく過ごせるようご家族と協力している。	居室は畳間にベッドが設置され、利用者の馴染の品を持ち込んでもらい、その人らしく快適に過ごせるよう配慮し、清潔で落ち着いた雰囲気づくりへの工夫が見られる。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居間、居室の中心に廊下があり、回廊歩行を実施している。浴室、トイレ、廊下には手すりを設置し、立位保持に努めている。居室、居間、食堂を移動されるので、障害物を置かないように注意している。			